

荒子川へテラピアの産卵床を見に行きました②。

平成21年7月15日 天気 晴 水温 26℃

技術士（衛生工学） 本 堀 雷 太

先日、荒子川へテラピアの産卵床の様子を見にいきましたが、写真が不鮮明だったため、もう一度行ってきました。観察場所は前回と同じ、荒子川中流域の篠原ポンプ場周辺です。



テラピアの産卵床 (黒っぽく写っている部分)

テラピアは水温 24℃～32℃では季節に無関係に産卵し、雄が水底に浅い巣穴を掘って産卵床を造ります。荒子川では初夏～盛夏にかけて産卵しているようです。雌は 400～2000 個の卵を生み、卵や孵化したばかりの稚魚を口の中に入れて保護します(マウスブリーダー)。



河川に投棄されたゴミの中に産卵床を作るオスもいました。なんか横着ですね。

オスは産卵床の周りに縄張りを作り、他の魚が侵入すると威嚇・体当たりして追い払います。下写真はゴミの中に産卵床を作ったテラピアの縄張りに隣の産卵床のテラピアが侵入した際の様子。睨み合っています。



稚魚はある程度の大きさになるまでメスの口の中で保護されます。

巣離れた稚魚は群れを作って、上流や下流へと散っていきます。

左写真は産卵床のある地点から100m程上流で見られたテラピアの稚魚の群れです。